

研究ノート

プロレスラーは本当に大きいのか？

——プロレス・リアル [2]——

¹諸井 克英 ²板垣 美穂 ³古性 摩里乃¹同志社女子大学・生活科学部人間生活学科・教授²同志社女子大学大学院・生活デザイン専攻修士課程2012年度修了³同志社女子大学大学院・生活デザイン専攻修士課程2年生Are Pro-Wrestlers Really Bigger?:
Reality of “professional wrestling” [2]¹Katsuhide Moroi ²Miho Itagaki ³Marino Furusho¹Department of Human Life Studies, Faculty of Human Life and Science,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Professor²Life Style Design Studies, Graduate School of Human Life and Science,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Graduate of 2012³Life Style Design Studies, Graduate School of Human Life and Science,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, 2nd grader

はじめに

第Ⅱ次大戦後、〈力道山〉(‘24年生～’63年没)は、プロ野球や大相撲と並ぶエンターテインメントとして「プロレス」を確立した(‘53年に〔日本プロ・レスリング興行〕設立〈ベースボール・マガジン社編, 2014; 以下のプロレス団体情報はこの書物による〕)。「苦悩, 敗北, そして正義の偉大な見世物」としての哲学者 Barthes(1957)による「プロレス」に対する着眼は、スポーツとしての「アマチュア・レスリング」とは異なる領域である「プロレス」の特異性に関する考察の基礎となる。前研究では(諸井, 2015), 女子プロレス団体の〔スターダム(STARDOM)〕(〈ロッキー小川〉(‘57年生～)により’10年に設立)を素材として, 「プロレス」空間に関する論究を企てた。本稿では, この「プロレス」空間を構成する重要な要素としてのプロレスラーの身体に注目しよう。

〈力道山〉は, 米国を中心とする巨体の外国人選手を相手にし, 第Ⅱ次大戦後に日本人が抱いた「敗戦コンプレックス」を払拭した。つまり, 彼は, 「日本人というアイデンティティを復興したヒーロー」なのである。もともと大相撲で関脇まで昇りつめた力道山は, 同時代の日本人と比べると大きな体格であるが(厚生労働省による昭和29年〈’53年〉度国民健康・栄養調査によれば, 25歳男性の体格は161.9cm, 55.3kgである〈http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21/eiyouchousa/kekka_shintai_chousa.html ’17年2月閲覧)〉, 身長の数値からは外国人選手に混ざると大きくはなかった(身長176cm, 体重116kg)。

例えば, テレビ・メディアと「プロレス」を連結し(猪瀬, 2013), その後の「プロレス」隆盛の出発点となった伝説的試合(’54年)で〈力道

山〉と闘った〈シャープ(Sharp)兄弟〉は、彼よりも20cm以上も背が高かった(Ben: 197cm, 112kg; Mike: 199cm, 119kg)。ちなみに、わが国におけるテレビ・メディアの勃興の歴史を論じた猪瀬(2013)は、〈力道山〉が巧みにこのメディアを利用したことを指摘した(「作動しているカメラに赤ランプ・・・それをチラッと確認」(猪瀬(2013))。要するに、「プロレスのスピード感とリングの狭さは、画像を四角い小さな箱に収めるには最適」(猪瀬, 2013)であったのだ。ところで、そのような「日本人のヒーロー」となった〈力道山〉は、興味深いことに実は朝鮮半島出身者であった(牛島, 1995参照)。この「プロレス」における民族的アイデンティティの問題については稿を改めて論じよう。

興味深いことに、〈力道山〉没後に、わが国で〔全日本プロレス〕(’72年設立)と〔新日本プロレス〕(’72年設立)という二大団体を率いた〈ジャイアント馬場〉(’38年生～’99年没; 身長209cm, 体重135kg)と〈アントニオ猪木〉(’43年生～; 191cm, 110kg)は体格的には恵まれたレスラーであった。つまり、日本の戦後復興・高度成長とともに先述した「敗戦コンプレックス」の払拭という機能を「プロレス」が担う必要がなくなり、屈強な巨体レスラーの身体がぶつかり合う「男」のエンターテインメントとして「プロレス」は確立する。

しかし、2000年代初頭には、〈猪木〉による異種格闘技路線の反動としての所属選手の大量の離反や彼自身の金銭スキャンダルに加え、〈馬場〉の逝去などもあり、二大団体時代が大きく揺らぎ「プロレス」は混迷期を迎える。しかしながら、それまでと異なるキャラクターを売りにする〈棚橋弘至〉(’76年生～)の登場により再興した〔新日本プロレス〕を中心として、今や「プロレス」は、女性観戦者の圧倒的な増加を大きな背景として現在新たなエンターテインメントの様相を示している。リング上で「愛してま～す」と叫んだり、ましてや「100年に1人の逸材」(棚橋, 2014))と自称するレスラーは、未だかつていなかった。

本稿では、プロレスラーの体格に注目し、他のプロ・スポーツ選手(本稿ではプロ野球選手とJ1リーガー選手)と比較しながら、プロレスラーの体格の特徴を明確にする。加えて、わが国の様々なプロレス団体に所属しているプロレスラーの体格の比較を行うことによって、エンターテインメントとして今や隆盛を極めている「プロレス」の構造の一端を探る。

資料分析の方法

プロレス雑誌である『週刊プロレス』を発行しているベースボール・マガジン社は、様々なプロレス団体所属レスラーやフリーランスのレスラーの情報を掲載した『プロレスラー全身写真名鑑』を毎年発行している。本稿では、『2016年版』(ベースボール・マガジン社, 2015)から、「所属団体、選手名、身長(m)、体重(kg)、’16年1月1日現在の年齢」を取得した。なお、外国人選手、体格や年齢について非公表の選手、女性レスラーは除外した。なお、フリーランスのレスラーも基本データには含めた。

本稿では、比較データとしてプロ野球とJ1リーガーを設定したが、そのために、『プロ野球選手カラー名鑑 2016』(日刊スポーツ出版社編集部+京都純典, 2016)と『2016 J1 & J2 & J3 選手名鑑』(サッカーダイジェスト責任編集, 2016)から同様のデータを取得した。当然ながら全員が男性であるが、外国人選手は除外した。なお、雑誌の出版時期から、プロ野球およびJ1リーガーともに、いわゆる1軍枠かどうかや移籍可能性について無視せざるを得なかった。

以上の仕方では、1667名(プロレスラー391名; プロ野球選手807名; J1リーガー469名)の基本データを作成した。なお、プロ野球選手やJ1リーガーを比較対象とした理由は、女性層を引きつけるエンターテインメントとしての成功にある(例えば、「カープ女子」)。

分析結果

(1)身長、体重、およびBMI

身長と体重に基づいて、肥満係数である

表1-a 身長, 体重, および BMI の平均値比較

		平均値 (a)	標準偏差値	最小値	最大値	分布の正規性 (b)
[身長(cm)]	プロレスラー	175.70 c	6.67	155	196	0.097, $p=.001$
	プロ野球選手	180.01 a	4.83	163	197	0.074, $p=.001$
	J1リーガー	177.46 b	6.37	155	195	0.070, $p=.001$
		$*F_{(2/1664)}=80.48, p=.001$		$**F_{(2/1663)}=93.54, p=.001$		
[体重(kg)]	プロレスラー	91.44 a	15.95	42	225	0.109, $p=.001$
	プロ野球選手	81.94 b	7.40	60	114	0.701, $p=.001$
	J1リーガー	71.43 c	6.49	57	94	0.068, $p=.001$
		$*F_{(2/1664)}=439.76, p=.001$		$**F_{(2/1663)}=281.41, p=.001$		
[BMI]	プロレスラー	29.53 a	4.33	15.43	72.64	0.099, $p=.001$
	プロ野球選手	25.27 b	1.92	20.29	35.19	0.045, $p=.001$
	J1リーガー	22.65 c	1.13	19.27	26.60	0.028, $p=.200$
		$*F_{(2/1664)}=781.51, p=.001$		$**F_{(2/1663)}=493.13, p=.001$		
[年齢]	プロレスラー	35.97 a	9.58	16	73	0.069, $p=.001$
	(2016年1月1日現在) プロ野球選手	25.87 b	5.09	17	42	0.093, $p=.001$
	J1リーガー	25.57 b	5.08	16	41	0.066, $p=.001$
		$*F_{(2/1664)}=377.48, p=.001$				

プロレスラー $N=391$, プロ野球選手 $N=807$, J1リーガー $N=469$

(a)異なる英字は互いに有意に異なることを示す($p<.05$, Bonferroniの方法)

(b)Kolmogorov-Smirnovの検定(Lillieforsの修正)

*: 一元配置の分散分析; **: 共分散分析(共変量: 年齢)

BMI(体重(kg)/身長(m)²)を算出した。まず, 3つの異なるプロスポーツ選手の身長, 体重, および BMI の平均値比較のために一元配置分析を行った。その際, 選手の年齢についても同様の分析を試みたところ, プロレスラーの年齢が他の2スポーツに比べて高かった。そのため, 年齢を共変量とする共分散分析も実施した(表1-a)。

身長と体重については, 興味深い有意差が検出された。身長では「プロレスラー<J1リーガー<プロ野球選手」, 体重では「J1リーガー<プロ野球選手<プロレスラー」という傾向があり, プロレスラーは確かに体重の点では重い, 身長の点では高くないのである。BMI も有意な効果があり, 「J1リーガー<プロ野球選

手<プロレスラー」の傾向が見られた。

プロ野球選手や J1リーガーとの比較から, プロレスラーの体型に関する次の2つの特徴が浮き彫りになった。①プロレスラーは体重の点では巨体といえるが, 決して長身揃いという訳ではない, ②プロレスラーの大半が肥満体型である。

次に, BMI に基づいて体型を3分類した(低体重: BMI <18.5; 普通体重: 18.5 ≤ BMI <25; 肥満: BMI ≥25)(表1-b)。プロレスラーの大半(93.34%)が肥満体型に属するのである。対照的に J1リーガーは大半(98.29%)が普通体重量型である。

以上の分析から, プロレスラーは, 巨体というよりも過度に体重を増やすことにより, その

表1-b BMIに基づく体格分類

	低体重	普通体重	肥満	合計
プロレスラー	1	25	365	391
プロ野球選手	0	379	428	807
J1リーガー	0	461	8	469
合計	1	865	801	1667

表1-c 巨体選手の人数

	巨体	非該当	合計
プロレスラー	77	314	391
プロ野球選手	11	796	807
J1リーガー	0	469	469
合計	88	1579	1667

巨体の定義: 180cm以上かつ100kg以上

表2-a 中規模以上のプロレス団体所属選手の身長、体重、および BMI の平均値

「団体名」	N	[身長(cm)]		[体重(kg)]		[BMI]		[年齢](2016年1月1日現在)	
		平均値 (a)	標準偏差値	平均値 (a)	標準偏差値	平均値 (a)	標準偏差値	平均値	標準偏差値
DDT	35	173.17 defgh	5.48	85.71 cdefgh	12.57	28.65 ae	4.73	29.97	7.84
DRAGON GATE	35	171.28 fg	4.41	78.85 eg	12.23	26.80 bcdef	3.49	33.37	8.03
K-DOJO	22	174.09 bcg	6.68	85.71 ag	9.43	28.28 adf	2.85	31.27	7.41
NOAH	15	174.60 bcf	5.91	90.07 af	10.23	29.51 ac	2.62	32.67	8.07
WRESTLE-1	21	177.86 abd	5.92	99.95 ab	31.25	31.55 a	9.84	33.52	8.54
ZERO1	11	180.18 ab	6.87	96.82 ae	13.52	29.68 ab	2.37	34.45	8.47
みちのく	13	172.00 defg	5.08	83.31 bcdefg	9.82	28.14 a	2.77	34.08	7.69
新日本	26	179.18 ac	5.86	100.19 a	10.23	31.15 a	2.08	35.88	7.20
全日本	12	183.08 a	7.04	98.92 ad	12.26	29.44 ad	2.46	34.08	12.38
大日本	16	175.06 bce	7.97	99.69 ac	17.41	32.50 a	5.23	34.13	12.06
		$F_{(9/196)}=7.60, p=.001$		$F_{(9/196)}=6.607, p=.001$		$F_{(9/196)}=3.359, p=.001$		$F_{(9/196)}=1.04, ns.$	

(a)異なる英字は互いに有意に異なることを示す($p<.05$, Bonferroniの方法)

大きさを印象づけていることになる。

なお、BMI は体型のバランスの指標ともいえ、この値が高くて必ずしも巨体とはいえない。そこで「180cm 以上かつ100kg 以上」を巨体と定義して3種類のプロスポーツ間の比較を試みた(表1-c; なお、この定義は恣意的である)。プロレスラーのうち19.69%が巨体カテゴリーに属していたが、他のプロスポーツでは巨体は希であった。

(2) プロレス団体間比較

次に10名以上の所属選手を抱えるプロレス団体を対象として、身長、体重、および BMI の団体間比較に関する一元配置分散分析を試みた(表2-a)。なお、団体間に有意な年齢差は認められなかったため、年齢を共変量とする共分散分析は行わなかった。

3変量すべてで所属団体の有意な効果が検出された。身長では「全日本プロレス」、体重では「新日本プロレス」、BMI では「大日本プロレス」(94年に「全日本プロレス」所属であった〈グレート小鹿〉(42年生)を中心として設立)が最大値を示した。興味深いことに、〔DRAGON GATE〕(04年に〈岡村隆志〉(64年)を中心として設立)が3変量すべてで最低値を見せた。

次に巨体レスラー数の団体間比較を行った(表2-b)。先の結果と一致して、〔全日本プロレス〕や〔新日本プロレス〕には巨体レスラーが多く所属しているが、〔ZERO1〕(04年、大谷〈'72年生)により設立)や〔WRESTLE-1〕(13年に〈武藤敬司〉(62年)により設立)でも巨体レスラーの割合が大きい。〔ZERO1〕や

表2-b 中規模以上のプロレス団体所属選手における巨体人数

	巨体	非該当	合計
DDT	1	34	35
DRAGON GATE	0	35	35
K-DOJO	1	21	22
NOAH	2	13	15
WRESTLE-1	7	14	21
ZERO1	4	7	11
みちのく	1	12	13
新日本	13	13	26
全日本	7	5	12
大日本	3	13	16
合計	39	167	206

巨体の定義: 180cm以上かつ100kg以上

〔WRESTLE-1〕は系譜的に〔新日本プロレス〕の流れに属する。

プロレスラーにとっての身体の意味

2つのプロスポーツ選手との統計的比較から、プロレスラーの体型に関する次の2つの特徴が検出された。①プロレスラーは体重の点では巨体といえるが、決して長身揃いという訳ではない、②プロレスラーの大半が肥満体型である。

本稿で比較対象とした2つのプロスポーツでの試合は通常2時間程度を要し、とくにサッカーの場合には大きなピッチ(長さ115~125m、幅78~85m)を走り回ることになる。彼らの体型はそのような試合形態に適合しているのである。

対照的に、「プロレス」の場合には3本のワイヤーロープで囲われたほぼ6m四方の空間が闘いの場となる。さらに、試合時間は30分を越えることもあるがほとんどがほぼ10分程度である。〔新日本プロレス〕の頂点に立つ〈オカダ・カズチカ〉(’87年生~; 191cm, 107kg)は、’17年初頭に二度に渡るタイトル戦を40分以上闘い、ともに勝利を手にし、「新日本を背負っている」ことを実証した(’17年1月4日対〈ケ

ニー・オメガ〉46分45秒; ’17年2月5日対〈鈴木みのる〉40分46秒(週刊プロレス, 2017(1.25); 2017(2.22))。ちなみに、先述した〈力道山〉が〈シャープ兄弟〉と闘った’54年の伝説的試合は60分3本勝負で時間切れ引き分けであった(ベースボール・マガジン社編, 2014; 〈力道山〉の時代には重要な試合では「60分3本勝負」という形式が一般的であった。)

さらに、凶器や反則攻撃の問題はここでは保留するとして、攻撃時の相手への衝撃と防御時の緩衝の点から身体を鍛え筋肉の鎧を纏うことになる(「試合をするうえで、体重があったほうがいいことはたしかだ。」「体を大きくしてから、今度は筋肉を落とさぬように減量して、腹筋の割れた「カッコいい体」を作る。簡単なことではないのだ。」(棚橋, 2014))。しかし、どのように鍛錬しても身長が伸びることはない。今や〈ジャイアント馬場〉のように長身である必要は必ずしもないのである。しかし、かつて〈力道山〉が自分よりも身長でも大きなレスラーと闘う構図によって「敗戦コンプレックス」の払拭が企てられたように、身長点でも巨体であることは「プロレス」がもつエンターテインメント性の重要な要素であった。

本稿ではプロレス団体間の比較も行ったが、〔新日本プロレス〕や〔全日本プロレス〕と〔DRAGON GATE〕との間に特徴的な差異が現れた。前2団体所属の選手は巨体レスラーが多く、後者は相対的に小柄なレスラーが多いのである。〔新日本プロレス〕や〔全日本プロレス〕でのレスラー募集には身長基準が設けられている(〔新日本プロレス〕: 「18歳以上~23歳以下で、身長180cm以上の健康な男子」〈<http://www.njpw.co.jp/test> ’17年2月閲覧〉; 〔全日本プロレス〕: 「18歳以上~26歳以下で、身長170cm以上の健康な男子」〈http://www.alljapan-pro.jp/info_dtl.php?id=2105 ’17年2月閲覧〉)。これは、両団体の巨体志向を示すとともに、身長さえあれば鍛錬により体重も増えるという考えに基づいていると推測できる。

対照的に〔DRAGON GATE〕は募集時に身

体基準を設けていない(「入寮可能な18歳～28歳までの心身ともに健康な男子であれば、どなたでも応募できます。身長や体重の制限は一切ありません。」〈<http://spora.jp/dragongate/posts/560750> '17年2月閲覧〉)。この〔DRAGON GATE〕は、'97年に〈ウルティモ・ドラゴン(浅井嘉浩; '66年生～; 172cm, 83kg)〉によって設立された〔闘龍門〕に由来する。〔闘龍門〕は、メキシコの「プロレス」にデビューさせるためのトレーニング組織で多くの日本人レスラーを生み出した。そこでは、空中戦、関節技や、ストレッチ技など俊敏さを特徴とするルチャリブレ(Lucha Libre; メキシカンプロレス)を叩き込まれた。募集にあたっては、身長制限は設けられなかった。この伝統を〔DRAGON GATE〕は受け継いでおり、当然の結果として本分析で示されたように、相対的に小柄なレスラーが所属しているのである。もちろん、「「いつ寝てるねん」って言うくらいのトレーニングの賜物」(岡村, 2016)が前提である。日本人の平均体格に近いレスラーが四角いリングを中心として闘いの物語を展開することになる(厚生労働省による平成26年('14年)度国民健康・栄養調査によれば、25歳男性の平均的体格は173.7cm, 71.3kgである)。

本稿では、雑誌データに基づいてプロレスラーの身体的特徴に関する統計的分析を行ったが、次のように結論できるかもしれない。〈力道山〉を引き継いだ〈ジャイアント馬場〉や〈アントニオ猪木〉は、我々が通常はもち得ない身体をもつレスラー同士の闘いを四角いリングの中で呈示することにより、身体的な意味での虚構空間をつくりあげた。観客として我々は自らの身体的願望(=強靱な身体)をリングに投射することにより心の中でリングでの闘いを現実化した。さらには、例えば遺恨の勃発と終焉というリング上での物語が観客の日常と重ね合わされ、その現実化を促進する。対照的に、〔DRAGON GATE〕のように、外見的に我々と身近な身体をもつレスラー(もちろん鍛え抜かれている点で我々の身体とは決定的に異なるが)による闘

いは、外見的類似のためにリングで創出される虚構空間を心理的に現実化しやすい。小柄なレスラーによる闘いは、巨体レスラーが創出する虚構空間の欠点すなわちレスラーの身体と自らの身体との乖離の大きさによる戸惑いを抑制してくれるのだ。これは、映画産業を中心とした「スター・システム」を論じたMorin(1972)が指摘した現実存在としてのスターと一般大衆との距離感の縮減と類比できよう(「神性を低落させ、スターと人間の接点を刺激し、増加させる」(Morin, 1972))。

おわりに

〈力道山〉は、①敗戦後間もない時期と②テレビメディアの日本社会への普及期という時代条件の中で、戦勝国であった米国に対するコンプレックスを身体という点では劣ることを逆手にとって、戦後の克服を企んだともいえる。当時中学生であった村松(2000)は、〈シャープ兄弟〉対〈力道山〉の激闘を「近所の電気屋の茶の間」におかれたテレビで観戦し、「力道山ならアメリカに勝てる」という気分を共有していたことを回顧している(「そこで力道山が打ちのめした相手が戦勝国のアメリカ人」(村松, 2000))。

しかし、'64年の東京オリンピック開催に象徴される経済的復興とともに日本人の敗戦感覚は希薄化した。当然、〈力道山〉による初期の企ても無意味化し、むしろ〈ジャイアント馬場〉や〈アントニオ猪木〉などの大型日本人レスラーにより身体上のコンプレックスが払拭されてしまう。ところが、この巨体志向性は、「プロレス」空間の男性的色彩の強化となり、エンターテインメントとして重要な女性ファンへの拡がりに限界を課すこととなった。もちろん、先述した2000年代初頭の低迷は様々な複合的要因によっているが、「プロレス」の巨体志向性が特別な身体をもつ者たち(例えば少なくとも180cm以上)の限定された闘いを象徴するために、先述したような平均的身体をもつ人たちにとって「プロレス」空間の虚構から現実への心理的転化が生じにくくなったともいえる。その結果、観客の既存層の離反が生じ、新たな顧客(とり

わけ女性層)の参入も少なく、全体として衰退化したのかもしれない。

例えば、「文化系プロレス」(高木, 2008)を標榜し、多くの女性の観客を吸収している〔DDT(Dramatic Dream Team)〕('97年に〈高木三四郎〉('70年生〜)らを中心に設立)の中心レスラーである〈HARASHIMA〉(年齢非公表)選手は、決して巨体ではない(178cm, 90kg; ちなみに〔DDT〕も募集に身体基準を設けていない〔<http://www.ddtpro.com/ddtpro/39436/> '17年2月閲覧)〕。〈HARASHIMA〉は、俊敏で鋭い蹴り技や関節技などにより醸し出される「残虐さ」と対照的な優しい顔立ちの選手である。さらに、アイドル・キャラクターという位置づけを確立している〈勝俣瞬馬〉('92年〜)に至ってはその体格(167cm, 70kg)は平均的な若年男性と変わらない。要するに、〔DDT〕の観客は、巨大な身体を武器とした闘いよりも、身体的には現実化しやすい「プロレス」空間という虚構を現実として体験しているのだ(例えば、16年12月4日エディオンアリーナ大阪第一競技場大会、現場観察)。

ちなみに、〔DDT〕の中心レスラーである〈HARASHIMA〉は、いわゆる大学(帝京大学)の「プロレス研究会」出身である。〔新日本プロレス〕の中心レスラーの〈棚橋〉も同様である(立命館大学)。かつてはプロレスラーといえは大学や高校などで何らかの格闘系スポーツに本格的に取り組んでいた(相撲、柔道、レスリングなど)。ちなみに、プロ野球選手であった〈ジャイアント馬場〉やブラジル移民であった〈アントニオ猪木〉は当時としては例外的である。両者ともに〈力道山〉に身体の大きさを買われたのだ。大学での「学生プロレス」は、体育会系というよりも「ショー」的色彩を帯び、学園祭などで観客を楽しませることを主目的とした団体である。興味深いことに、「学生プロレス」出身者として後々大成功を収める〈棚橋〉も〔新日本プロレス〕入団後も引け目を感じていた(「僕は、デビューまで「学生プロレス出身」という経歴を隠していた」(棚橋, 2014))。



図1 プロレスリング紫焰・アゼリア大正大会
('17年1月22日; 著者撮影)

しかし、〈棚橋〉や〈HARASHIMA〉の成功は、「学生プロレス」も1つの「プロレス」として一般的に認知され、もはや違和感をもたれなくなっている。例えば、大阪を中心として活動している〔プロレスリング紫焰〕('10年に大阪学院大学「プロレス研究会」出身の〈佐原英司〉('79年〜)により設立)は、今やほぼ月に1回有料興行を行い若年女性層を中心に多くのファンを獲得している(図1, '17年1月22日大阪・アゼリア大正大会、現場確認)。当然、出場レスラーの大半は身体的には平均的体格である。〔プロレスリング紫焰〕のように、地方に根ざし、「プロ」と「アマ」の境界に位置する「プロレス」も活況を呈しているのだ(たこ焼きマシ、2016参照)。

プロレスラーの身体的特徴に関する分析を試みた本稿の分析では、「プロレスラーは必ずしも大きくない」という結論が得られた。身体を重要な要素として構成された「プロレス」空間では、巨体レスラーは観客に驚愕を与える。しかしながら、エンターテインメントとしての成熟とともにそれだけでは不十分であり、小柄であったとしてもそのレスラーが試合で創り出す物語が観客に現実の感動を喚起するのだ。例えば、「TORU 自主興業」('16年10月23日大阪・世界館; 〔道頓堀プロレス〕所属の若手レスラーである〈TORU〉によって主催)の第5試合として組まれた〔大日本プロレス〕のユースであ



図2 巨大な壁に立ち向かう〈大久保寛人〉選手
(「TORU 自主興業」)
(‘16年10月23日世界館；著者撮影)

りウェイトトレーニングで鍛え上げた〈関本大介〉(‘81年生～; 175cm, 110kg)と〔プロレスリング紫焰〕所属の若手レスラーである〈大久保寛人〉(‘91年生～; 170cm, 75kg)との闘いは典型的である。観客は、最初は嘲笑と戸惑いを示したが、最終的には〈大久保〉に声援を送り、彼の敗北にもかかわらず大きな感動に浸った(図2; 現場観察)。あたかも、決して乗り越えることができない大きな壁に観客自身が立ち向かっているような悲壮な現実感と気概が生じたのだ。

〈付記〉

- (1) 本稿は、第1著者の立案に基づいている。なお、第2著者は、雑誌データの整理に尽力した。また、第3著者は、現場観察と3の撮影に貢献した。
- (2) データの統計的解析にあたって、IBM SPSS Statistics version 22.0.0.1 for Windows を利用した。

引用文献

- ベースボール・マガジン社編 2014 『日本プロレス全史』 ベースボール・マガジン社
- ベースボール・マガジン社 2015 『2016 プロレスラー全身写真名鑑(週刊プロレス別冊)』 ベースボール・マガジン社
- 猪瀬直樹 2013 『欲望のメディア』 小学館文庫
- Morin, E. 1972 *Les Stars*. Éditions du Seuil. 渡辺淳・山崎正巳訳『スター』 1976 法政大学出版局
- 諸井克英 2015 〈安川悪斗〉の流血の彼方—プロレス・リアル[1]— 生活科学(同志社女子大学), 49, 46–51.
- 村松友視 2000 『力道山がいた』 朝日新聞社
- 日刊スポーツ出版社編集部+京都純典 2016 『プロ野球選手カラー名鑑 2016』 日刊スポーツ新聞社
- 岡村隆志 2016 ドラゴンゲート—団体発足時から女性に人気。最近はお子さんも。— 『Sports Graphic Number Plus AUGUST 2016』 文藝春秋 80頁
- サッカーダイジェスト責任編集 2016 『2016 J1 & J2 & J3 選手名鑑』 日本スポーツ企画出版社
- 週刊プロレス 2017(1.25) 死闘初め 1886, 4–7.
- 週刊プロレス 2017(2.22) 新日本という大海原 1890, 4–10.
- 高木三四郎 2008 『俺たち文化系プロレス DDT』 太田出版
- たこ焼きマシン 2016 『ローカルプロレスラー図鑑+2016』 たこ焼きマシン.com
- 棚橋弘至 2014 『棚橋弘至はなぜ新日本プロレスを変えることができたのか』 飛鳥新社
- 牛島秀彦 1995 『力道山—大相撲・プロレス・ウラ社会—』 第三書館

